

平成29年

福祉文教委員会

10月16日

豊明市議会

福祉文教委員会会議録

平成29年10月16日

午前10時00分 開会

午前10時59分 閉会

1. 出席委員

委員長	近藤千鶴	副委員長	清水義昭
委員	富永秀一	委員	鵜飼貞雄
委員	毛受明宏	委員	早川直彦
委員	近藤善人		

2. 欠席委員

なし

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議事課長	鈴木美智雄	庶務担当係長	長野直之
議事担当係長	水野美樹		

4. 説明のため出席した者の職、氏名

健康福祉部長	藤井和久	児童福祉課長	加藤育子
指導保育士	樋口桂子		

5. 傍聴議員

なし

6. 傍聴者

なし

午前10時開会

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） おはようございます。定刻に御参集いただき、ありがとうございます。

ただいまから福祉文教委員会を開会いたします。

議長が出席でありますので、挨拶をお願いします。

○議長（月岡修一議員） おはようございます。

福祉文教委員会の議題が、所管事務調査についてということでもありますので、しっかり調査をしていただきたいと思いますし、今後、こういった所管事務調査がやっぱりふえるのかなど。そういったことを続けながら内容をしっかりと把握していくということと、当局におかれましてもできる限り、やはり詳細にできるだけ説明していただいて、議員の皆さんがより理解できるような、そういった姿勢を示していただければと思います。よろしくお願いいたします。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ありがとうございます。

これより会議を開きます。

本日の傍聴については、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

それでは、議題に従いまして会議を進めます。

1、所管事務調査についてを議題といたします。

初めに、各調査項目及び御用意いただきました資料について説明をいただきたいと思います。

まず、調査項目1つ目、平成29年度における待機児童の現状把握について説明をお願いいたします。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） それでは、資料1をごらんください。

28年度につきましては、待機児童数を毎月1日現在という形で状況を捉えまして、それを踏まえて、今年度は毎月は必要ないであろうという解釈のもと、3カ月に1回という形で、4月と10月は国の報告もありますので、そちらのほうの基準に合わせて数を把握しております。

ごらんいただいたように、4月1日現在は、国基準でいう待機児童が2、潜在的待機児童数が46、合計48というふうに、これも既に報告を、国への報告をさせていただいております。7月は同じように、6と67で合計73、10月1日現在、これはこれから報告する予定

の数になりますが、16と105と121ということで、今年度につきましては、あと1月を最後の予定という形にしております。

昨年度のふえぐあいと比べると、10月1日現在においては、若干、昨年度よりも多くなっているというのが実態でございます。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 調査項目の2、待機児童対策の現状と今後についての説明をお願いいたします。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 待機児童対策としまして、小規模保育事業所というA型を解消するというので、既に子ども・子育て支援事業計画でも提示させていただいており、平成31年度までに四、五カ所ということで計画をしております。

これ以外に、計画にはなかったんですが、事業所内保育所というものが来年度4月オープン予定という形で、今、準備を進めているところです。それと、これ以外にももう一カ所、事業所内保育事業所の開設についての相談を受けている事業所があります。

次に、認定こども園ですが、これも、今、1カ所相談を受けている園がありまして、早く32年度オープンを目指すという形で相談を受けております。

以上のとおり、小規模保育事業所以外も参入があるということで状況は変化しつつありますので、今後は未満児の受け皿の見込みについては、これらの状況を総合的に捉えながら、必要数の確保を検討していく予定です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 調査項目3、一時保育の現状についての説明をお願いいたします。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） それでは、資料2をごらんください。一時保育について説明させていただきます。

一時保育は3種の枠に分かれております。ここにありますように、非定型、私的理由、緊急保育ということでお受けいたします。その説明については、下に記載されております。

28年度、非定型のお受けした数が631、私的理由、リフレッシュといいますが、その件数が96件、緊急一時保育、これにつきましては市役所のほうが窓口になっておりますが19件、計746件お受けいたしました。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 調査項目4、民間保育の現状と今後について説明を

お願いいたします。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 現在、豊明市内にある民間保育所としては、認可園が3園と小規模保育事業所3園、事業所内保育所が来年1園開設予定、認可外保育所が2園となっております。

今後は、公立園と民間園との役割分担と連携を図りながら、豊明市の保育ニーズの質と量の確保を目指していく予定です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 説明は終わりました。

質疑のある方は挙手を願います。

早川委員。

○早川直彦委員 順番に確認させていただきます。お願いします。

1番目の資料1なんですが、29年から3カ月に1回というふうになりました。前年より説明の中でも若干ふえたということなんですが、ゼロ歳児も1歳児も両方とも若干ふえているのか、どちらか極端な傾向というのがあるのか。また、認定こども園もふやしている部分もありますので、ふやすことによって逆に、利用しやすくなったことで待機児がふえてきているのかどうかということも教えていただければでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） まず、昨年度の状況と比較してですが、傾向的にはゼロ歳、1歳、2歳児というのが圧倒的に多いということでは大きな変化はありませんが、全体的に少し多くなっているということです。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございます……。

（いいですかの声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 済みません。

○児童福祉課長（加藤育子君） それと、ごめんなさい、質問の内容……。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 早川委員。

○早川直彦委員 昨年、認定こども園でしたっけ、園をふやしましたよね……。

（小規模の声あり）

○早川直彦委員 ああ、小規模の、そう、小規模の、ふやしましたよね。ふやせば当然、利用しやすい、いい環境になるじゃないですか。よくすれば、逆に、ああ、豊明は力を入

れているから私も働きたいわとかというふうにニーズがふえれば、逆にまたそれがもとで待機児がふえてく傾向になっていく、若干ふえているということで、受け入れやすくなったからやっぱり預かりたいわという人はふえていくという、ふえている、そういう観点もあるのかというところがちょっと聞きたかったんですが。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 現実問題としては、小規模保育事業所が3カ所ふえたにもかかわらず、やはり実態として待機児童数がふえてるということは、ニーズもふえてるんであろうという推測になります。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 今、昨年度の10月1日と比べて若干ふえているという認識だったわけですが、実際の数字でいうと、昨年度の10月1日というのは、待機児童の数は75名で、それが121名になったということは、50人もふえる、50人近くもふえているわけですが、これ、若干という認識でいいですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 若干という言葉がふさわしくなければ、ふえておりますという言葉にさせていただきますが、ふえているのは実際ふえております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 昨年の資料を持ってこなかったんですが、潜在的なほうかふえているのか、去年に比べ国基準のほうかふえているのか、両方ふえているのか、ちょっと去年と比較して人数を教えてくださいませんか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 昨年度の10月1日現在では、国基準が4名、潜在的待機が71名で合計75名でした。今年度はお手元にあります資料のとおりですので、どちらかという潜在的のほうが多くふえているという傾向になります。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 潜在的にふえている理由、多分相談に見えて、何かいろいろ聞かれていると思うんですけど、何か理由の中で特に多いものというのは何かあるんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

（ちょっと資料を確認します。お待ちくださいの声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 早川委員。

○早川直彦委員 調べてる間によろしいでしょうか。内山の、資料2のほうを聞かせてください。

延べ人数で書いてありますが、実際の利用者さんというのは何人になるんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 1日に5人枠なんです。非定型とリフレッシュ、合わせて5人枠です。非定型がほとんど4名の方をお受けして、あとリフレッシュは1人という形で、リフレッシュをお受けするときは、月に1度しか受けることができません。なので、1日付でいつも受付で並んでいただく格好なので、人数としては毎月……。

（リフレッシュの方と非定型と、分けて出てますよねの声あり）

○指導保育士（樋口桂子君） 年間の件数ではなくですか。

（発言する者あり）

○指導保育士（樋口桂子君） 済みません。人数が把握できてなくて申しわけありません。こまで数えてますので、申しわけございません。

終わります。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 先ほどの早川議員の御質問に対してのお答えですが、昨年度の各月のところを比較してみましたところ、求職活動というところがふえてきているということで、御存じかもしれないですが、以前は求職中の人は待機児童という形のカウントをしなかったもので、その影響があるかと思えます。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 潜在的な方もそうなんですけど、就職活動だと、もう何とかならないのというふうになってくる方も多分いると思うんですけど、結構そういう、何とかなる、仕事

の関係で、もうこれだとやめなきゃいけないとか、そういう声というの届いてるんでしょうか。本当に預かってもらわないと仕事をやめなきゃいけないとか、そういう現状もあるんでしょうかね。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 担当から聞いた話で、復帰できない場合は延期、育休の延期というような形で、証明を事業所に出して育児休業を延期してもらうというような対応をしているケースがあるということは聞きました。

それとあと、ひとり親等でどうしても入らないといけない等、そういった相談を受けた場合もありますが、いろいろこちらのほうも、なるべく早く入れるようにという形では努力はさせていただいております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 今まで統計の中では、多分114人というのは一番多かったと思うんですけども、先ほどの若干ふえたと、後でふえたというふうに変えられましたけど、余り大変な事態だという危機感が感じられないんですけど、こういう、これだけの数になっているというのは相当、例えば待機児童に対する緊急事態宣言を出してもいいぐらいの事態だろうというふうには思うんですけども、それでもまだ、先ほどのお話だと、事業所内保育所が来年4月にできますということだけですよね、今、決まっているのは。そうすると、今の時点で121人もいる待機児童がまださらに、普通例年でいうとさらにふえますよね。それが一気に解消するとはとても思えないんですけど、これ以外に、例えば前の一般質問のときにたしか、入札制も含めて検討の課題には入れるというような話があったと思うんですが、そういったことまではまだ考えられていないんですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 現地点では、先ほど申しあげましたように、小規模保育事業所が四、五カ所という予定はありますので、あと、それと、小規模事業所以外の参入というの、先ほど御説明させていただいたとおり、今後、相談も受けているというのがありますので、それらの動きを総合的に捉えて開設していきたいというふうには考えておりますので、決して危機感を持っていないわけではありませんので。

小規模保育事業所を今後認可していくスタイルのことだと思うんですが、その公募等と

いうスタイル、そういうことも全く検討していないわけではございませんので、今後の検討課題になると思います。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 来年、事業所内、今設立に向けてという説明があったんですが、何人ぐらいの方を見ていただけるのか、事業所内でも見ないかんですもんね。一般の方を大体どれぐらいの規模で考えられてるのでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 今、事業所との相談では、事業所枠をとりあえず4名、あと残り26名を地域枠としていただけるというふうに伺っております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 議事録が本当は見たかったんですが、8月8日に開かれた子ども・子育て会議の議事録がまだ公開されてないと思うんですけど、そういう今の決定のやり方といいますか、子ども・子育て会議に諮った上で多分決めるという形にされてると思うんですけど、その中では、待機児童数がどんどんふえてきているということに対する危機感というのは共有できてるのでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 8月の子ども・子育て会議の主な内容というのは、子ども・子育て支援事業計画の中間評価の年になるので、その数値目標の見直しという形で実施しておりますので、待機児童に対してどう議論をしたという議事録では残っておりません。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 平成29年度の10月1日現在で75名ふえているのかな、国基準だと4名ふえているというようなことなんですけど、昨年度と今年度で、この段階での公立の定員、あと事業所も含めての定員。定員に変化というのはありましたか。例えば公立が減ってい

るとか、定員が。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 公立の定員枠は一応規則で決められておりますので、定員数には変わりはありません。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

（発言する者あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 清水委員。

○清水義昭委員 ごめんなさい、聞き方が悪かったですね。

昨年度の10月の段階での例えば公立のゼロ歳児の定員、それから、今年度の10月の時点でのゼロ歳児の定員とか、そういうふうに数字を並べていただけるとわかりやすいと思うんですが。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 公立園10園のこの状況、お伝えします。

ゼロ歳児で2園、二村台、館で9名から6名減らしましたので、計6名定員数を減らしました。1歳児につきましては2園、青い鳥と西部で5名減らしました。2歳児につきましては4園、青い鳥、西部、二村、中部、26名減らしました。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 減らしたのは、職員の環境、人の配置が難しかったから減らしたということなんですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 先ほどから話がありますように、小規模園が3園となりました。1園からプラス2園ということで3園になりましたので、その受け皿を持っていたということで、今言った人数を公立園では減らしたということになります。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 早川委員。

○早川直彦委員 逆に言うと、ふやすことは、現状やっていたら可能ということで、人数が潜在的も含めて75から121ふえたということは、何とか年度内にその辺を、人数を途中か

ら、今、人を集めるのも大変だというふうに、先生たちも大変というのは聞いているんですが、何とか対応ということは検討できないのでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） まず、今、公立の定員枠を絞ったというその経緯は、小規模保育事業所が開設した場合に、小規模保育事業所からまず埋めていくということで、公立と私立との役割分担をするという意味で、まずそこを優先しております。弾力的に、一時的に公立園を縮小した形にはしてあるんですが、今、早川議員がおっしゃっていたように、そこは弾力的な考え方ということで、そこは必要数に応じて今後検討していく必要はあるかとは思いますが、何分にも保育士の確保が大前提となりますので。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 ふやせる状況があるならば、できるだけ早い時期に、やっぱり困っている方がふえているというのは事実ですので何とか、検討するといつてずるずるずるずるいって、年度終わってまた4月ですじゃいかんですので、その辺は、市としてちょっと力を入れていこうとか、ちょっと一考しようとか、そういうのは部長、どうなんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

藤井健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤井和久君） 先ほどもちょっと話をしていたんですけども、必要な保育士が確保できれば、当然マイナスになっている分を補充するような形で埋めていきたいという気持ちは当然持っていますし、市長からも、待機児童をとにかく減らすようにという指示を受けてますので、そういった相談はさせていただいておりますけども、現状としては、そもそも公立園ですら非常勤の方に頼っている部分が大きいし、さらにその部分でも欠員があると。さらに、加配の子どもが多い現状で、そちらのほうにも保育士がやはりかかってしまうというさまざまなマイナス要因がありまして、なかなか定員をふやすような形にはできてないのが現状なんですけれども、可能な限りそういった方策はとるようという指示はしております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 僕が余りわかっていないからあれかもしれないですけど、今の話、総合

的に聞いていると、じゃ、小規模保育園をふやしたところで待機児童を減らすというふうには結びついていないというふうな認識でいいんですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

藤井健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤井和久君） 全国的な傾向として、定員をふやすとすぐに埋まって、さらにまた手を挙げてくるというか、定員をつくれればつくるほど、どこでもやはり新たに手を挙げてくる人が多い状況、これは、働き方が変わってきて、女性が社会に戻るということもありますし、会社もそれを支援するということがあって、やはりそういうニーズは間違いなくふえているんですけども、そのニーズに比べて、こういった保育の受け皿の増加が伴ってないということはもちろんあるかと思います。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 今現在で国基準での待機が出ているということは、いずれにしても、どこでもいいからという人でも入れない人がいるということですから、公立で減らしたけれどもあいてるわけではないということだと思っておりますが、定員としても埋まっているという意味にとれるんですけど、それでいいですか。つまり、ふやせる余裕があるかのようなお話もあったんですけども、でも国基準でゼロだという、つまり受け入れができていないということは、その余裕はないはずなんだけどと、ちょっと理解ができてないんですけど。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 先ほど、定員枠を少し縮小しているというその影響で、今、現実あきはないのは、実際あきはないんですが、ただ、マイナス3名とかマイナス6名とかというふうに先ほど説明させていただいたところが復活できれば、そのところに受け皿の余裕ができるという形になるので、国待機の人方の行けるところが少し広がると思います。

以上です。

（確認ですが、多分同じことなんだと思いますがこの声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 富永委員。

○富永秀一委員 つまり、物理的に保育園で受け入れられる人数というよりは、保育士の数による定員の増減というのが結構あるということですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君）　そうです。それと、先ほど部長も説明させていただいたとおり、あきは、1 枠あきがあったとしても、加配対応のお子様がそこにまじっていることによって、6 名定員のところを5 名までしか受け入れないだとか、そういった園が実際に起こっているのは事実です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員　そうすると、物理的なことも考えると、保育士さえそろえば、あとどのぐらい受け入れられそうなのというのは、何となく数字としてはわかりますか。その園で最大受け入れていた、保育士が十分だったときに受け入れていた人数とかで、もし計算ができれば。すぐには出ないかもしれませんが。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　答弁できますか。

（委員長、少しお待ちくださいの声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　ほかには質問がある方。

できますか。

指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君）　先ほど言った28年度から29年度に定員数を減らした数からいきますと、例えばゼロ歳児だったらあと2名、1歳児でしたら1名、2歳児だったら4名ということで、7名の保育士を確保できればというところになります。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤善人委員　保育士さんの確保が大変ということなんですけども、退職された保育士さんとかの数とか、退職された保育士さんへのアプローチなんかはしているんでしょうか。今、どのような方法で保育士さんを募集しているかということ、ホームページ以外とか広報以外で何をされているかというのをお願いします。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君）　先ほどおっしゃられました広報、ホームページではもちろん周知させていただいておりますが、退職職員に対しても再任用という形で、ここ数年、退職の方は就労していただいております。

以上です。

(関連での声あり)

○福祉文教委員長(近藤千鶴議員) まだありますか、答弁。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長(加藤育子君) 追加で、日曜日の求人募集の新聞のチラシがあると思います。これくらいのちっちゃい枠なんですけど、そこに載せさせていただいているのは、もう何回となくやっております。

以上です。

○福祉文教委員長(近藤千鶴議員) ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤善人委員 その効果というか、今までどれぐらいの方が申し込んでこられて、実際に保育をしているかというのは把握されてるでしょうか。

○福祉文教委員長(近藤千鶴議員) 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士(樋口桂子君) 窓口のほうには何人かの方が来ていただいて、人数の把握とかまではいかないんですが、来ていただいた方には配置をさせていただいております。ただ、中には、保育士とはいえ、資格は持っているとはいえ、なかなか誰でもいいよというわけにはまいりませんので、そのあたりは面接させていただき、今までの経験だったり保育観みたいなものをお聞きして決めているのも現状です。

以上です。

(関連での声あり)

○福祉文教委員長(近藤千鶴議員) 近藤委員。

○近藤善人委員 直接退職された方にアプローチということはしてないわけですか、個別に。

○福祉文教委員長(近藤千鶴議員) 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士(樋口桂子君) 済みません、直接にはしておりません。

終わります。

○福祉文教委員長(近藤千鶴議員) ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 今、ホームページだとか、あと求人チラシなんかを出されているという、出しているということなんですけども、それというのは、今働いている保育士さんた

ちが例えば産休に入って足りなくなるからというような意味合いなのか、それとも、もっと定員を確保したいからという意味合いなのか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 今現在も、4時間勤務だったりするんですけど、保育士が足りない状況ではあります。なので、そこを、フリー保育士だったり副園長が補ってる現状です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 先ほど4時間というのも出てきたんですが、もともと3時間でやってたときに回らないということで無理言って4時間にさせていただいて、今、4時間で多分無理言ってやっていただいていると思うんですが、もうこれ以上、まだふやさないとやれないような状況なのか、まだ無理言って4時間よりもちょっと多くやってる方も実際みえてるのでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 今、正規職員のほかに非常勤保育士が、10月1日現在で87名の方をお願いしております。その中に4時間勤務の方が40名おります。この40名の方は本来、フルの7.5時間をお願いしたいところなんですけど、そこがかなわず、40名の方に4時間勤務ということで、もし頭数でいえば20名で済むところです。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤善人委員 個別な対応はしてないということなんですけども、これはできないのか、やっていないのか、どちらなのでしょう。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 少し修正させていただきます。

本当に足りなかったところがありました、今年度に入りまして。そのときには、今までの任用通知という、こちらで保管させていただいておりますデータがあるものですから、そういう退職者というよりは、自分の中で保育士資格を持ってるなという、把握している

人にはお声はかけさせていただきました。ただ、その段階でもうよそで働いているという方もみえますし、なので、全くそういったアプローチをしなかったわけではございませんが。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 ちょっと関連してくるんですけど、私も知っている知人の方で数名、以前保育士として働かれていて、今何もしていない方、いらっしゃるんですね。話聞いたところによると、やはり仕事の内容がすごく、要は重いつて言ったらあれなんですけども、厳しい環境の中で仕事をしていると。

そういったものの内容の把握であったりだとか、あとは職場環境の改善だとか、そういったところまでは考えてらっしゃるんですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 非常勤の先生方にも正規職員と同じような内容というわけにはいきませんので、そのあたりは考慮させていただいております。ただ、命を預かる仕事ということで、決して軽視してもらっては困りますし、事務仕事も確かに多いです。子どもの記録であったり、あと計画だったりとか、絶対必要なものは、申しわけありませんけど、非常勤とはいえ最低のラインでやっていただいているのが現状です。

なので、それを近隣市町と比べていただいて、どここの市は全く書類を書いてないというところも確かにございます。そういったところで、豊明市も改善していかなくてはならない点かと思えますけれども、先ほど言いましたように、園児にとってなくてはならないものということで理解していただいているのが今のところですよ。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 豊明市の保育園で働いてて、例えば別の園に移るからやめますよというようなケースというのはありますか、保育士さんが。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 非常勤職員の方で、ここ数年、小規模保育所とか認定こども園がほかの市町でできています。そこへ正職ということでお誘いを受けると、かなりの

方が動いております。それが現状です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 なかなか、人を集めるのもそうだし、雇用している方も4時間勤務の方もそうですし、フルパートの方もそうなんですが、大変な状況というのは、もう十分私たちもつかんでるんですが、でも、何とかその労働環境もよくしないと、子どもたちの、一瞬の目を離れたすきに怪我をしたりとか、事故を起こしたりというふうになってるんですが、なかなか集まらない。相当、毎年毎年見ると、求人広告もふやしたり目立つようにしたりとか、豊明の場合だと、駐車場、ほかのところだと駐車場は自分でお金出さなきゃいけないけど、豊明は駐車場は出さなくていいという、その辺のメリットはあるんですが、何かもう打つ手が、もう今、頑張ってるんだけどちょっとないような状況なのか、どうなんですかね。一生懸命やっているんだけどちょっとなかなか人が集めれない状況なのかというのが1点と、もう一点が、4時間勤務の方で、何とかフルパートのほうに、7時間のほうにならないのかということも、40名の方がみえるんですよね、4時間勤務の方が。その中でも7時間、フルのほうにちょっと変わっていただけないかということも働きかけ、してるんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 4時間勤務の方がというのは、今、扶養内に入ってみえる方がほとんどなのです。なので、その辺で、今、面接を園長が、各園長がする時期にはなってるんですが、来年度に向けてはそんなお話を数名お聞きしております。

（発言する者あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

○指導保育士（樋口桂子君） 先ほどの1点目の御質問なんですけれども、今現在、先ほども申しましたように、4時間勤務で足りない状況ではあったんですけれども、この時期になりまして、園児たちもなれてきてますので、今年度に入って。今、別段それほど緊急性はないということで、今の保育は持続ができていくということです。ただ、来年度に向けて、退職者の人数がまだ出てきておりませんが、来年度に向けてはいろいろなことを模索している状況です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 ほかの市町から正職の誘いがあれば行ってしまうということを考えると、豊明市で正職の数をふやせば逃げていかないということにもなるかとは思いますが、そうすると、定員適正化計画との関係というのも出てくるわけですけど、例えば正職並みとといいますか、それに近い待遇を、例えば非常勤で設けられるとかいうことだと、また出ていくケースも減ってくるかな、あるいは集まってくるケースもふえてくるかなと思うんですが、今、正職と非常勤とで待遇、例えば報酬の面でいうとどのぐらいの差がある感じですか、豊明市でいうと。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁できますか。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 済みません、金額の把握はできておらず、申しわけございません。ただ、非常勤、正規職員並みのキャリア採用、任期付採用という職員はおります。

（何名の声あり）

○指導保育士（樋口桂子君） 任期付が今2名、それから29年度からキャリア採用が1名おります。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 正職並みの報酬であったり、待遇が受けられるということですか、非常勤であっても。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） そのとおりです。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 ちょっとまだこの話題、ちょっと変えてよろしいですか、一時保育のほうに。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） はい。

（発言する者あり）

○早川直彦委員 もうちょっとですか。

それじゃ、後で。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 富永委員。

○富永秀一委員 これは、それだけの正職並みのを受けられるのには、やはりそれなりの条件というのがあるのかなと思うんですが、要するに、非常勤78人の中で、先ほど何人と、何か2種類おっしゃいましたよね。それで、合わせてせいぜい数人だったと思うんですけど、その待遇が受けられるのと受けられないのとではどういう違いがあるんですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 待遇が受けられるというの、資格ですね。まず、保育士資格と幼稚園教諭の2級免許を持っている職員に限られています。

あと、ここ数年の任期付というのは、保育士、豊明市としては正職で5年以上というようなことでしておりますので、それも見直していかなくてはいけないことかもしれませんが、今現在の任期付は両方の資格を持っております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 資料2のほう、ちょっと聞かせてください。

私的理屈、保育のリフレッシュが、これがちゃんと機能しているかどうかというのが、すごくいつも気になるところなんですよね。やっぱり保育、子育てでやっぱり疲れちゃってとか、あつてはいけないんだけどちょっと手が出ちゃうとか、最後はネグレクトになっちゃうとか、あつてはいけないです。その辺が、心理的にリフレッシュできて、ちゃんと改善されてくのか。また、お母さんやお父さんたちに対して、余り精神的になっちゃダメだよとか、別なところにつないでいくとか、そういうことがちゃんと機能してるかどうかという、去年は96、延べで96あるわけですが、その辺はどうなんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 市内に3園子育て支援センターがございます。内山のすまいると東部保育園のともとも、青い鳥に支援センターあおいとりがあります。そこの職員が相談事業もやっておりますが、そこでお母さん方の悩みを聞いたりして、ここのリフレッシュにつなげることも確かに多くあります。

ただ、先ほども申しましたように、5人の中の1人枠なので、このリフレッシュ保育を受けられるお母さんが1日1人ということと、あと1カ月に1回しか受けられないということがありますので、そこが十分かと言われると、十分じゃないのかもしれない。

以上です。

(発言する者あり)

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 関連しておるかもしれない。

先ほど非定型と、あと私的の理由、合わせて1日5名ということで伺ってました。延べ人数で、先ほど、実際どれぐらいの方が利用されているかって聞いてたと思うんですけど、傾向でいいんですが、同じ方がやはり利用されているのか、いや、そうではなくて、満遍なくいろんな方が利用されているのか、傾向だけでいいので教えてください。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 非定型のほうは割合同じ方だとお聞きしております。リフレッシュのほうは人が変わっているような状況です。ただ、これも1日に受け付けをしますの、並んでいただくという格好で、早い順になってしまっているのが現状です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 私的も、今の保育の現状だと、ふやしたくても月2回とかふやせん。これもできればふやす、特に私的はもうちょっと、月1度を2度にするとか、その辺はちょっと努力はできないんですか。今の現状ではちょっとまだ無理なのか、もうちょっと保育の人数とか何か時間帯を指定、短時間でもできるとか、何か工夫はないんですかね、これ。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 現地点では、やはりスペースとマンパワーの問題があつて、なかなか即ということは難しいんですが、今年度の計画の見直しの中でも、やはり先ほど申し上げたように、非常に枠が限定されることの課題ということでは認識しております、これも今後改善をしないといけないというふうに考えているところです。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 一時保育のところの非定型、特に非定型なんですけども、先ほどから並んでいただいているというようなことをおっしゃられてるんですけど、これ、たしか決算委

員会のときに、お断りしたことはないというような御答弁があったと思うんです。なぜ並んでるんですかね、これ。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

（少しお待ちくださいの声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにありますか。

（発言する者あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） じゃ、しばらくお待ちください。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 今、内山保育園で1日、毎月1日に、電話申し込みではなくて並んでいただくという受け付けのスタイルをとっているということで、結果的には早い者順というふうになっているのが実情です。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 私的理由はほうなんですけども、これも月に、毎月1日ですか、に並んでということだと思うんですが、僕の考えでいくと、心理的、肉体的な負担というのは突然やってくる、蓄積してはいくんですけども、これも緊急性がある程度高くなる時があるんじゃないのかなというふうに思うんですよね。そうなると、毎月1日に計画的にこの枠をとるというよりかは、これもある程度、緊急的に受け付ける必要もあるのではないかなと思うんですけど、そういったお考えってございませんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

樋口指導保育士。

○指導保育士（樋口桂子君） 今、おっしゃられた保護者さんの病気ということでしょうか、それについては、緊急一時保育ということで、各園……。

（そういう扱いでということですかの声あり）

○指導保育士（樋口桂子君） そうですね。そちらで各園、10園お受けしております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 先ほどの非定型のところ、一時保育の非定型のところなんですけど、これ、並んでいただいてというようなことで、非定型だと、特に働いてる方で、例えば週に二、三回、パートさんとかで働きに出たりというようなことで、基本的には働きに出てる方が

ここに申し込まれるということも多々あると思うので、すなわち、私が勝手に考えているのは、ここに申し込んでいる人というのは割と待機に近いのかなというようなことがあるんですね。並んでいただいているということは、恐らくお断りするの、それとも日にちを変更してもらうのかとかという、そういう事案があるんじゃないかなというふうに予想できるんですけども、その辺の現状はどうなんでしょう。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 非定型の保育の条件というのが、1カ月に15日以内という働き方になりますので、当然、保育の申し込みの条件よりもうんと日数が少ない人なので、しかも1週間に多少上旬に日数が集中するとか、個人差はあるかとは思いますが、日にちを調節しながら働いている方だと思いますので、そういった点では、待機児童という形にはカウントできないかと思います。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 民間保育の現状と今後について、ちょっと書き取れなかったですので、もう一回言ってもらえますか。まずお願いします。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 現在、市内にある民間保育園の現状ですが、認可保育園が3園、小規模保育事業所が3園、事業所内保育所が来年開設予定が1園、認可外保育所が2園。それが、豊明市内にある民間保育所になります。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 早川委員。

○早川直彦委員 なかなかこの数字を、待機児、潜在的もふえてる中で、例えば来年度これをやりましたといっても、この数字が、年の初めは若干少なくなって、だんだんだんだんふえてくというのは毎年傾向があると思うんですが、来年の初めは、最初の4月1日の段階から待機児が出るような気もしないわけではないんですが、その辺はどうなんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 現地点で、国の基準の待機児童数が16名いらっしゃいま

すので、今後、半年間でまたふえていく可能性としてはありますが、先ほど申し上げました事業所内保育事業所が一応26名地域枠をいただけるということで、何とかそれに近い状態でおさまっていただければと思っているところです。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

早川委員。

○早川直彦委員 26園がびっちり決まって、実際に4月1日からスタートすれば理想だ、多分その方向で市のほうも力を入れてやっていると思うんですけど、また入ったとしてもまた同じ状況で、年の、4月1日はいいけどだんだんだんだん、6月、8月になるとなるんですが。

とはいっても、小規模のほうをふやせばそれだけのコストもかかるわけなんですけど、時々出てくるのが、保育園を指定管理というような考えも出てくるのかもしれませんが、答弁の中でなかったですが、今のところは、園の一部を指定管理に出すとか、そういう考えはないということによろしいんでしょうか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

藤井健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤井和久君） 公立園を指定管理にするかということは、今のところ考えは持っておりません。ただ、市内の保育園もかなり老朽化しておりますので、そういった建てかえももちろん視野に入れながら、今後、早急にそういった対応もしてく必要があるかなというふうに考えております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 事業所内保育所について、前、ちょっと窓口で話を聞きに行ったときには、30名定員で地域枠24名というふうに聞いたと思うんですけど、今26名とおっしゃったということは、定員はふえたということなんですか。ちょっとこの定員について、多分公式な場ではまだ出てないかもしれないので、一応、今度のつくられる事業所内保育所について、もうちょっと詳しく教えてもらえますか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 保育園としては30名定員ということで変わりはありません。当初見込みで、ゼロ歳、1歳、2歳を2名ずつ、6名を事業所枠という想定をしてお

りましたが、その後、事業所側が来年度実際に利用される人の調査等をして、4名という数字を出していただいて、地域枠を26名いただけるという話になりました。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員 今、最後のほうでおっしゃった4名というのは、何の数字ですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 事業所内の、事業所枠です。

答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） ゼロ歳児1名と1歳児3名、合計4名が事業所枠という形で、あと残り26名を地域枠という形で。

以上です。

○富永秀一委員 わかりました。それだけで済んだという。わかりました。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 今の民間のことで、2番目の待機児童対策の今後というところ、ちょっと絡めていきたいんですが、これ、来年度、仮に事業所内保育所が1つふえて26名受け入れられるというようなことが決まったときに、公立の園の定員というのは、また半期先ですけども、どういうふう考えてるんですかね。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君） 先ほども申しあげましたように、小規模事業とか事業所内保育事業所をまず埋めていくという形で、そちらのほうを優先的に調整していきます。公立園の定員枠については、現地点ではまだ、どこの園を、30年度についてはもう少し絞るという、そういった検討はしてありませんが、弾力的な定員という形では考えておりません。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

以上で質疑を……。

（発言する者あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 最後だと思います。

市内にある幼稚園のあるところが、今の保育所の建設というんですかね、ということと
かって聞いてませんか。特段固有名詞は言わないですけども、そういう動きとか
というのはないですか。

(こども園の声あり)

○鶴飼貞雄委員　そうです。認定こども園ですかね。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君）　先ほど前の2番のところでお話しさせていただいた認定
こども園について、現在、相談を受けている事業所がありますということです。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　ほかにございませんか。

富永委員。

○富永秀一委員　今、相談を受けているのが1つという、1カ所、1園ということだった
んですけど、この前、運動会に招待されて行ったところの幼稚園も、うちも認定こども園
にして、枠を、そっちの保育のほうにふやす、保育のほうを受け入れることによって、幼
稚園のほうは、ほかの幼稚園というのはまだちょっと枠があるから、今、子どもたちいっ
ぱいだけ、そっちのほうに回ってくれて保育を受け入れることができれば市の役にも立
つと思うんですけども、市のほうが予算がないと言って断られているというふうに聞いたん
ですけど、そのことかなと思ったら、今ちょっと聞いてみたら違うところだったので、
そういう考えで協力したいと思ってるけども断られてるところがあるとなれば、それは、
受け入れれば保育、待機児童削減に役立つと思うんですけども、そういう考えといいま
すか、認定こども園をできればふやしていきたいという考えは、余り積極的ではないん
ですか。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員）　答弁願います。

加藤児童福祉課長。

○児童福祉課長（加藤育子君）　もう一園の話というのは、ちょっと市のほうは把握して
おりませんが……。

(発言する者あり)

○児童福祉課長（加藤育子君）　とりあえず相談を受けている園については、市の方針と
して、小規模保育事業所、事業所内保育所とか、総合的に、計画的にふやしていきたい
というふうには思っております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 藤井健康福祉部長。

○健康福祉部長（藤井和久君） 今の認定こども園の関係ですけれども、毎年学校教育課を通じて認定こども園の意向調査とかがあって、その中で正式にやっぱり話があるのは1園。だから、今言われたのはどこかちょっとわからないんですけど、正式に打診はないですし、もし予算がないとかそんな具体的な話は多分ほかの園ではしていないので、1つの園については、かなり具体的な話まで実は進めておりますので、そういった話も出てくるんですけども、その他の園についてはありません。

それから、幼稚園のこども園化については、今、やっぱり子どもを取り巻く環境がいろいろ変化している中で、豊明市もやっぱりかなり待機児童、問題になっておりますので、協力を仰げる分につきましては、やはりそういった民間の力もぜひおかりして、待機児童ゼロに向けてという方向で考えております。

以上です。

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 以上で質疑を終結します。

今回の委員会で、関係資料の審査から、本日のポイントとしては、やはり保育士不足、また、待機児童の枠を埋めるには、なくしていくには、今後の取り組みが一番重要ではないかと思いました。また、市においても、小規模保育園がふえる一方、公的の保育園も枠を少なく、保育士不足により減少、定員の枠を絞ってしまうことに、保育を絞らざるを得ないということがすごく問題かなというふうにも思いました。これは、本当に今後の課題として取り組んでいただきたいと思えます。

それから、現地調査の実施については、今後、委員の皆さんと協議を進めながら、また必要であれば委員会を開いて、現地調査の申し入れをしていきたいと思えます。

その他について、委員から何かございますでしょうか。よろしいですか。

（進行の声あり）

○福祉文教委員長（近藤千鶴議員） 本日の調査で、本市の現状について御説明をいただきました。来週26日には、待機児童対策について、船橋市へ行政視察に行きます。待機児童解消緊急アクションプラン等、先進事例についてお聞きする予定をしております。委員の皆様には、本市の状況を踏まえ、問題解決に向けた視察研修となるよう、質問事項等の準備をお願いいたします。

以上で福祉文教委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前10時59分閉会